

心身障害研究の疫学的検討

平山宗宏	(東京大学)
坂元正一	(")
井形昭弘	(鹿児島大学)
鈴木継美	(東北大学)
松永英	(国立遺伝学研究所)
田中克己	(東京医科歯科大学)
古庄敏行	(鹿児島大学)
大浦敏明	(大阪市)
井上英二	(東京大学)
芦沢正見	(公衆衛生院)
茂在敏司	(大阪医科大学)
皆川進	(国立国府台病院)
前田和甫	(東京大学)
木村三生夫	(東海大学)
大國真彦	(日本大学)

厚生省心身障害研究の各班のうち、疫学的研究を行なっている小班の連絡を密にし、相互にその研究成果を活用し、研究効果をあげる目的で本班は組織された。

研究方法

疫学的研究を実施中の研究グループの代表者に依頼して研究成績をもちより、研究の方法、解析経過、結果、今後の見通し等について全員で討議を重ねることにより、心身障害研究全体の横の連

絡をとるとともに、研究の能率的な遂行に資することとした。

研究成績

以下に各研究班代表によるそれぞれの研究のまとめを記す。

これらの研究成績の提示、討論により、心身障害研究のうちの集団を対象とする諸研究の相互理解が得られ、今後の研究を無駄少なく能率的に、かつ連繫をもって実施する方針が確認された。

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

厚生省心身障害研究・遺伝研究班(主任研究者:井上英二教授)では,その課題の一つに「心身障害の予防に関する細胞遺伝学的研究」を取りあげ,昭和49年度より51年度まで3年間,日本人集団における染色体異常の実態調査と成因の究明,並びに検査技術の改良をめざして研究を行った。以下は,このなかで疫学的手法を用いてなされた成果の概要である。